ケンエー IC Infection Control News
感染対策に関する最新ニュース
179

矢野 邦夫
浜松市感染症対策調整監 兼 浜松医療センター　感染症管理特別顧問

フロリダ州におけるキューバ渡航関連A型肝炎のアウトブレイク

米国フロリダ州でキューバ渡航者においてA型肝炎のアウトブレイクが発生しており、その詳細をCDCが報告しているので紹介する[1)]。

はじめに

・フロリダ州衛生省(Florida Department of Health：FDOH)は2024年6月1日から2026年2月28日の間に報告されたA型肝炎249例のうち、キューバ渡航関連症例76例を含むアウトブレイクを調査し、現場の感染管理や予防体制構築に関する詳細な疫学・分子疫学知見を体系的にまとめた。

背景と疫学調査の目的

・キューバでは2024年以降、水質インフラ障害に伴う上水道汚染を原因としたA型肝炎のアウトブレイクが現地メディアで報じられていたが、政府による公式監視データは公表されていなかった。
・フロリダ州には約180万人のキューバ系アメリカ人が居住して、州人口の8%を占めており、親族訪問等でキューバと日常的に往来する背景が存在する。
・キューバ保健省(Ministry of Public Health of Cuba)は2024年12月に旅行者警戒情報を発出し、在キューバ米国大使館も2025年8月にハバナでの症例増加に関する健康アラートを発出した。
・フロリダ州衛生省は2025年初頭、潜伏期間にあたる発症前15～50日以内にキューバ渡航歴のあるA型肝炎患者の割合が異常に高いことを察知し、包括的な疫学調査を開始した。



アウトブレイクの疫学的・分子疫学的解析結果

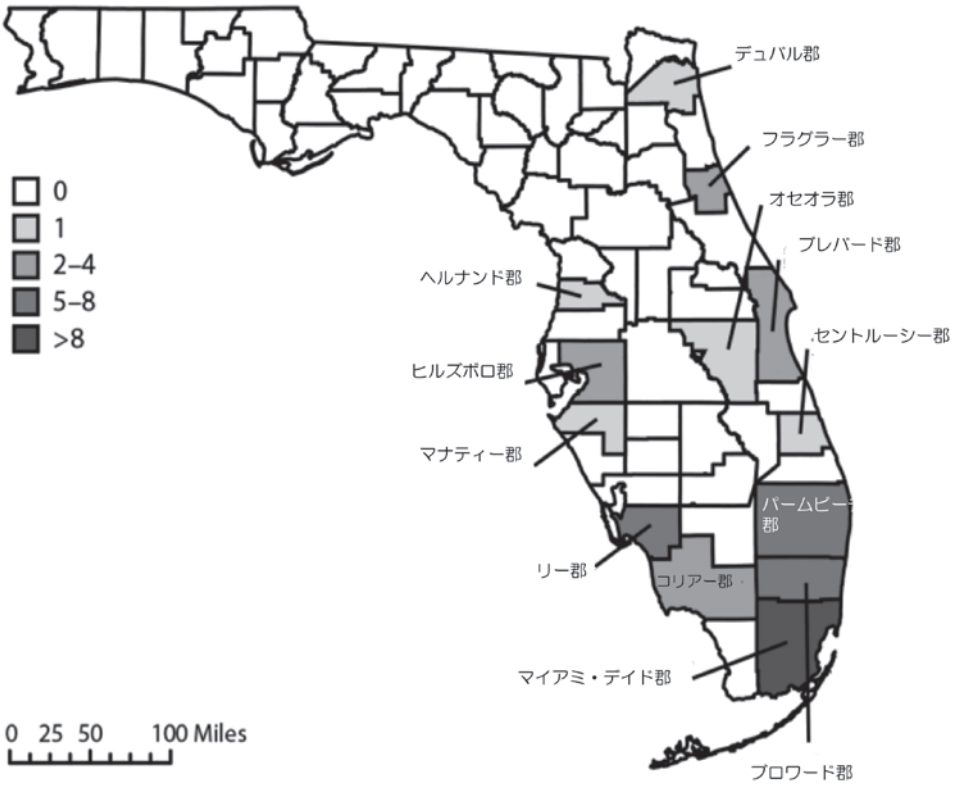
・2024年6月1日から2026年2月28日までにフロリダ州衛生省へ報告されたA型肝炎249例のうち、潜伏期間中の国外渡航歴があった症例は118例(47%)で、そのうち76例(31%)がキューバ渡航者であった。
・遺伝子解析および疫学的関連性に基づき定義されたアウトブレイク関連症例は計79例(全確定症例の32%)であり、死亡例は0例であったが71.8%(56/78例)が入院を必要とした。
・アウトブレイク関連症例79例の背景は、年齢中央値39歳(四分位範囲31-51歳)、男性69.6%(55例)、白人87.2%(68例)、ヒスパニックまたはラテン系92.3%(72例)であった。
・アウトブレイク症例79例の渡航歴は、直近のキューバ訪問歴あり64例(81%)、渡航日程不明の渡航歴あり8例(10%)、キューバからの最近の移民4例(5%)であった。
・渡航歴不明の2例(3%)は遺伝子配列の一致により定義に含まれ、渡航歴なしの1例(1%)は渡航歴のある同居家族との疫学的関連性による二次感染例であった。
・キューバ滞在期間の中央値は11日間(四分位範囲6-26日間)であり、海外渡航以外の既知のリスク因子として男性間性交渉者2例(3%)が同定された。
・症例が最も集中した南東部3郡(ブロワード郡、マイアミ・デイド郡、パームビーチ郡)の59例中29例で詳細追跡調査が完了し、55.2%(16例)がハバナに滞在していた。
・補足調査に応じた28例中26例(92.9%)は家族や友人の家庭のみに滞在し、移動手段は商用便79.3%(23例)、チャーター便20.7%(6例)であった。
・飲用水源はボトル水69.0%(20例)、水道水41.4%(12例)、沸騰・ろ過水13.8%(4例)、氷13.8%(4例)であり、複数利用の回答が見られた。
・補足調査対象者の44.8%(13例)は、キューバ滞在中現地でA型肝炎の流行や症例に関する情報を家族や友人から直接聞いていた。
・州衛生公衆衛生研究所(Bureau of Public Health Laboratories：BPHL)で実施された18例の遺伝子解析において、15例(83.3%)が同一の遺伝子型IA型アウトブレイク株1と一致した。
・残る3例の遺伝子解析結果は、遺伝子型IB型株1が2例(11.1%)、遺伝子型IA型株2が1例(5.6%)であった。
・遺伝子型IA型アウトブレイク株1は2025年2月にフロリダ州で初めて確認された株であり、過去に州内やCDCのGHOST(Global Hepatitis Outbreak Surveillance Technology)データベース[CDCが開発した、肝炎ウイルスの分子疫学解析および集団感染監視用プラットフォーム・データベース]での報告事例がない新規系統であった。
・過去のデータ比較において、2010から2017年のフロリダ州のA型肝炎における国外渡航関連割合は34%であったのに対し、本調査期間では47%へ上昇し単一国由来が突出していた。
・本疫学調査の限界として、遺伝子解析実施が全79例中18例(23%)に留まること、補足アンケート回収率が37%で回想バイアスを含むこと、感染地域の完全な特定が困難なことが挙げられる。

地理的分布と流行曲線

・フロリダ州の郡別アウトブレイク関連A型肝炎症例数では、全79例が67郡中13郡(19%)に分布している[図1]。地理的解析では、マイアミ・デイド郡が46例(58%)と最も多く、次いでパームビーチ郡8例、リー郡6例、ブロワード郡5例、ヒルズボロ郡3例の順であった[図1]。
・主要遺伝子型IA型株1が確認された症例は、マイアミ・デイド郡およびパームビーチ郡で各6例、ブレバード郡、リー郡、オセオラ郡で各1例であった[図1]。

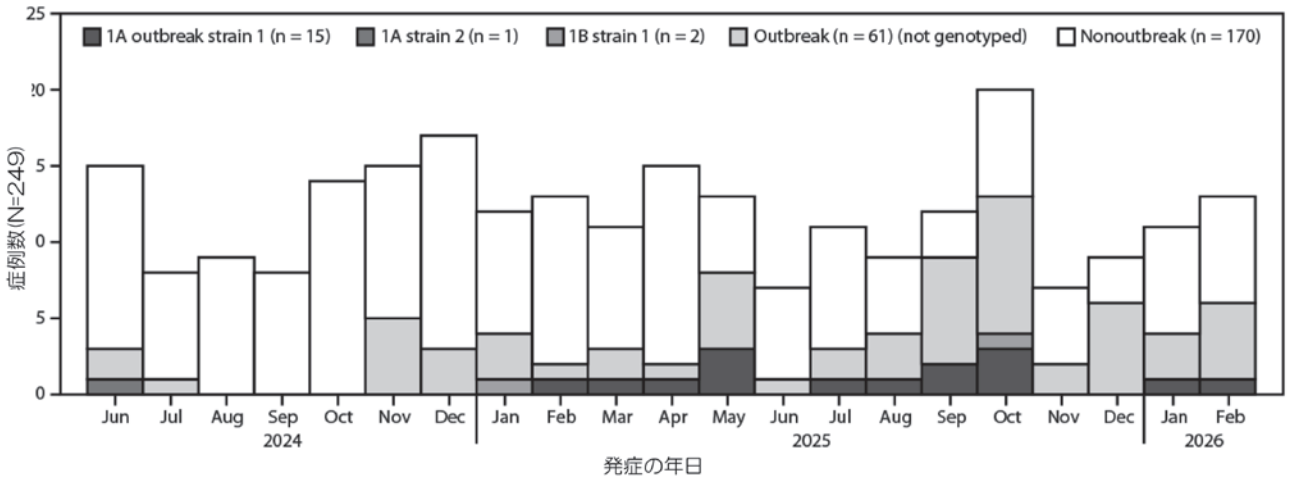
・2024年6月から2026年2月までの症例発生の月別および遺伝子株別の経時的推移によると、2025年5月および2025年10月にアウトブレイク関連症例の明確な流行ピークが観察され、継続的な感染伝播がみられている[図2]。

図1 キューバに最近滞在したフロリダ州住民における、郡別のアウトブレイク関連A型肝炎症例数* — 2024年6月～2026年2月



*郡ごとのアウトブレイク関連症例の総数は、ブレバード郡2例、ブロワード郡5例、コリアー郡2例、デュバル郡1例、フラグラー郡2例、ヘルナンド郡1例、ヒルズボロ郡3例、リー郡6例、マナティー郡1例、マイアミ・デイド郡46例、オセオラ郡1例、パームビーチ郡8例、セントルーシー郡1例であった。優勢なA型肝炎ウイルス遺伝子型IAアウトブレイク株1に関連する症例数は、ブレバード郡、リー郡、オセオラ郡でそれぞれ1例、マイアミ・デイド郡とパームビーチ郡でそれぞれ6例であった。

図2 A型肝炎の症例数(発症月別、株別)―フロリダ州、2024年6月～2026年2月



結論

・キューバ渡航後の患者がA型肝炎症状を呈した臨床現場では、渡航歴の詳細な聴取と早期のA型肝炎鑑別診断を実施することが極めて重要である。
・キューバへ渡航予定の旅行者に対しては、渡航前にA型肝炎ワクチンの接種、または免疫グロブリンの投与による予防措置を推奨する必要がある。
・特に40歳以上の成人のほか、免疫不全患者や慢性肝疾患患者などのハイリスク者が2週間以内に渡航する場合は免疫グロブリンの投与を積極的に検討すべきである。
・渡航者に対する事前カウンセリングでは、衛生的な飲食の実践(ボトル水の選択等)や手洗いなどの感染予防策の遵守について具体的な指導を行うことが推奨される。

健栄製薬
大阪市中央区伏見町2丁目5番8号
06-6231-5822
https://www.kenei-pharm.com/

【文　献】
1）Linwong NN, et al. Hepatitis A Outbreak Associated with Cuba — Florida, June 2024–February 2026 https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/75/wr/pdfs/mm7537a1-H.pdf

本資料の無断複写･転載は禁止します。